

林業の期待の星とヒバを学ぶ

7月21日、青い森林業アカデミーのカリキュラム「天然更新現場調査」を眺望山自然休養林で実施しました。

令和3年3月、東北森林管理局と青森県は「青い森づくりの推進に関する覚書」を締結しました。この覚書には、青い森林業アカデミーを中心とした林業従事者の確保・育成の推進が取り組みの一つとして盛り込まれています。

以上の背景から、青森森林管理署では青い森林業アカデミーへ、除伐箇所等のフィールド提供や今回のような講師派遣等の協力をしております。

1 国有林の概要、ヒバについての講義

眺望山へ出発する前に、山田署長による講義を青森森林管理署で行いました。

国有林の概要や、青森県ならではの樹種であるヒバの分布や利活用についての説明がありました。



2 眺望山でヒバの天然更新を調査



講義終了後、眺望山自然休養林へ移動しました。ヒバ林を初めて見た生徒さんも多く、アカデミーの講師や森林管理署の職員から、ヒバの伏条更新や天狗巣病、ヒノキチオールなど、ヒバに関する様々な説明を、熱心に聞いていました。

当日は蒸し暑いコンディションでしたが、体調不良者を出すことなく全員が無事に登頂し山頂の展望台からの景色を楽しみながら昼食をとりました。



3 青森市森林博物館を見学

眺望山を下山した後、青森市森林博物館へ向かいました。

博物館では、館長の辻村氏から青森県のヒバや木材運搬の歴史について館内を巡りながら解説していただきました。



青森市森林博物館には初めて足を運びましたが、館長の説明がわかりやすく、とても勉強になりました。木材の運搬を目的とした森林鉄道が日本で初めて運用された場所が津軽であったことを初めて知りました。全盛期のヒバの搬出材積は約 63 万 m^3 で、現在が約 6,000 m^3 という話が印象に残っています。また、ヒノキチオールという成分はヒノキにも含まれているのかと思っていましたが、ヒノキには含まれていないそうです。

今回の研修にご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

青森森林管理署 業務グループ